

# IR report

## 第75期 中間決算のご報告

2009年4月1日～2009年9月30日



 **KYOKUTO**

**極東開発工業株式会社**

証券コード:7226

## トップメッセージ



株主の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2009年4月1日から2009年9月30日までの当社第75期第2四半期の営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、個人消費や企業収益の悪化に歯止めがかかりつつあるものの依然として低水準にとどまっており、雇用・所得環境は一段と厳しさを増すなど、先行き不透明な環境が続いております。

このような中、当社主力の特装車事業につきましては、世界的な景気悪化や公共事業の削減を背景とするトラック需要の大幅な減少により国内、海外ともに非常に厳しい状況となりました。環境事業につきましては、自治体の財政難や公共工事の削減等により厳しい状況が続きました。また、不動産賃貸等事業につきましては、マンション建設の減少により立体駐車装置の市場が低迷し厳しい環境となりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期と比較して、特装車事業の減少により、全体では16,052百万円(40.1%)減少して23,942百万円となりました。損益面では、役員報酬ならびに管理職給与の削減等による固定費の圧縮を進めたことや、環境事業が、プラント部門の選別受注やメンテナンス・運転受託事業への注力により黒字転換いたしました。特装車事業の売上高減少に伴い営業利益は2,648百万円減少して1,233百万円の損失となりました。経常利益は2,897百万円減少して1,319百万円の損失、四半期純利益は1,844百万円減少して1,016百万円の損失となりました。

今後の見通しにつきましては、東南アジア等一部の地域で景気の持ち直しの兆候が見られるものの依然として先行き不透明であり、経営環境は引き続き厳しい状況で推移するものと思われまます。

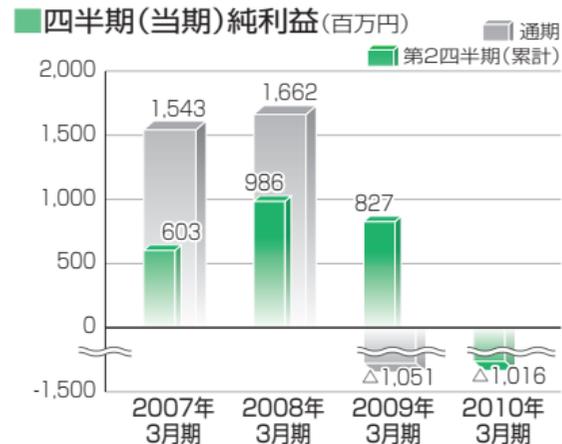
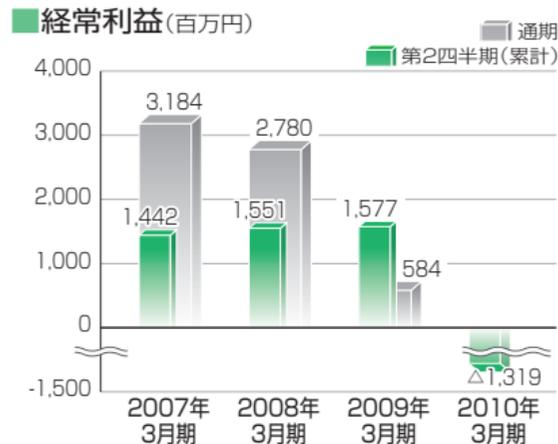
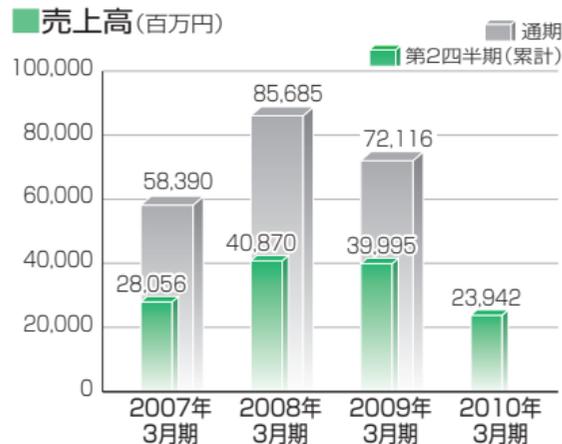
このような状況の下、当社グループは、現在の市場規模でも収益を確保できる強い企業体質への転換を図るべく、生産拠点の統廃合、グループ体制の見直し、集中購買等による調達体制の抜本的な見直し等の諸施策に一丸となって取り組み、収益の改善に努めてまいります。また、新しい市場を開拓し、一層の受注確保を図るため、軽トラック専用荷役省力装置「パワーゲート®・ミニ」や電気で圧縮装置を駆動させる「電動ごみ収集車」等のような新製品の開発にも積極的に取り組んでまいります。当社グループの持続的な発展を図るため、新製品の開発や海外事業等の今後の成長が見込まれる分野へ、積極的に経営資源を投入してまいります。

株主各位におかれましても、引き続き変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2009年12月

取締役社長 筆谷高明

## 連結業績ハイライト



### 圧縮装置を電気で駆動する「電動ごみ収集車」を新開発

—三菱自動車工業株式会社の電気自動車のバッテリーシステムを搭載—

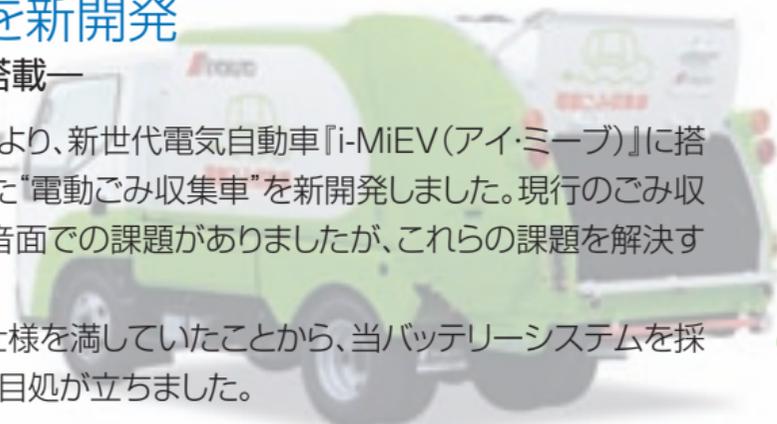
当社は、三菱自動車工業株式会社(取締役社長:益子修、本社:東京都港区)より、新世代電気自動車『i-MiEV(アイ・ミーブ)』に搭載されている「バッテリーシステム」(\*)の供給を受け、同システムを使用した“電動ごみ収集車”を新開発しました。現行のごみ収集車の圧縮装置は常にエンジンを作動する必要があり、環境への負荷や騒音面での課題がありましたが、これらの課題を解決するために、電動式のごみ収集車の開発に数年前から着手していました。

そのような中、三菱自動車工業の『i-MiEV』バッテリーシステムが必要な仕様を満していたことから、当バッテリーシステムを採用し、電気で圧縮装置を駆動する「電動ごみ収集車」を新開発。今回実用化の目処が立ちました。

- (1) 圧縮装置の動力源をエンジンからバッテリーに変えることで、作業時のCO<sub>2</sub>排出量を従来に比べて約75%削減
- (2) 作業時はエンジンを停止することができるため、エンジン音や排気ガスの排出がゼロ
- (3) 超低騒音で作業ができるため、早朝や深夜、ビル内での作業にも最適
- (4) 装置を動かすための電気代は、従来の軽油代に比べて大幅に削減

などの特長をもった、画期的な環境にやさしい「電動ごみ収集車」は来年1月に正式発売予定です。当社は、今後も地球環境の保全に貢献できるよう、環境に配慮した製品開発を積極的に進めてまいります。

(\*)バッテリーは、株式会社リチウムエナジージャパン製。



軽トラック専用の荷役省力装置

# 「パワーゲート<sup>®</sup>・ミニ」を発売



軽トラックへの重量物積み込みをサポートするべく開発したのが2009年10月より新発売した軽トラック用荷役省力装置「パワーゲート<sup>®</sup>・ミニ」です。

当新機種は現在お使いの軽トラックに簡単に装着ができるコンパクトな設計のパワーゲートですが、最大リフト能力は100kg確保されており、荷物積み込みの際の労力が大幅に軽減されます。リフトの昇降はボタン一つで簡単に操作でき、テーブルが軽トラックの荷台の高さよりも約33cm上まで上昇しますので、コンテナ等の重ね積みもしっかりサポートします。

また、防護カバーやロック装置、キースイッチなどを装備し安全対策も万全。農機具の積み込みをはじめ、電気器具やビールケースの積み込みなど様々な場面で安心してお使いいただける製品となっています。年間の販売目標は1,000台を予定しています。



「パワーゲート<sup>®</sup>・ミニ」専用ホームページもあわせてご覧ください。  
<http://www.kyokuto.com/pg-mini/>

POINT



荷物積み込みの労力を大幅に軽減

POINT



ボタン一つで簡単操作

積載物をその場ですぐ計量！回収をより効率的に！

# 計量装置付脱着ボデー車「スケールフックロール®」を発売

当社が2009年4月に発売した脱着ボデー車の新機種(商品名:スケールフックロール®)は車両(キャリア)に計量装置を搭載し、産業廃棄物処理の際、廃棄物の量を「重量」で記載することが求められているマニフェスト制度に対応した製品です。

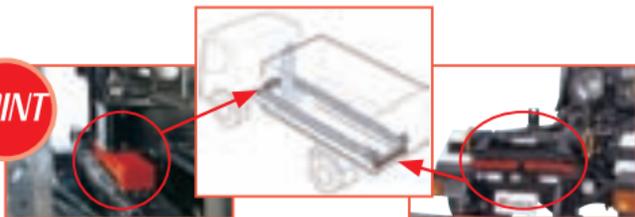
当新機種では、キャリアの前方1箇所、後方2箇所の計3箇所に高精度のロードセル(計り)を配置しており、回収した積載物の重量を回収した場所ですぐに計量してアウトプットできます。

重量はkg単位で指示パネルに表示されるのでわかりやすく、過積載の防止にも役立ち、さらに積載した際にトラックスケール(※)に載せて計量する手間が省けるので、回収効率がアップするなど、今後ますます高まると予想される廃棄物計量とコンプライアンスのニーズにお応えします。

また、100種類のコンテナ重量を事前に登録できる機能を搭載するなど、利便性も追求した製品となっています。

(※)トラックスケールとは、車両の重量を測定する装置のことです。

POINT



- ※1.ロードセル(荷重変換機)とは重量を計量するセンサーで、荷重を電気信号に変換するものです。
- ※2.ロードセルの標準仕様は黒色ですが、上記画像は説明のために着色しています。
- ※3.実際にはロードセルカバーがつきますが、上記画像は説明のため取り外しています。

## 新製品 NEWS ③

極東開発と日本トレクスが共同開発！業界トップクラスの短尺トレーラ！

### 新型「2軸24kLアルミタンクセミトレーラ」を発売

タンクローリの輸送効率向上や走行安定性のアップ、耐久性の強化といったニーズにお応えするのが、グループ会社の日本トレクス株式会社との共同開発で2009年7月に発売した新型「2軸24kLアルミタンクセミトレーラ」です。

当新機種は両社の保有するノウハウと技術を集結し、道路運送車両の保安基準の緩和への対応やタンクの軽量化を行ったことで、従来の20kLアルミタンクセミトレーラとほぼ同等の連結全長(当社比)で、タンク容量24kLを実現しました。従来の2軸24kLのアルミタンクセミトレーラに比べ(当社比)連結全長が約2,600mm短くなった業界トップクラスの短尺トレーラで、輸送効率の向上を図ります。

また、安全・安心の運行をサポートするための装備も充実。エアサスペンションやEBS(電気制御ブレーキシステム)、バンド式マンホール、リフトアクスルを標準装備しました。さらに、リフトアクスルやワイドシングルタイヤの採用により、タイヤ重量を軽減し、タイヤの磨耗やローテーション等のメンテナンスコストを低減しています。年間の販売目標は40台を予定しています。

(注)特殊車両のため道路の通行には道路管理者から許可を得る必要があり、条件によっては、使用に制限のある場合があります。



エアサスペンションを標準仕様とし、抜群の走行安定性を実現

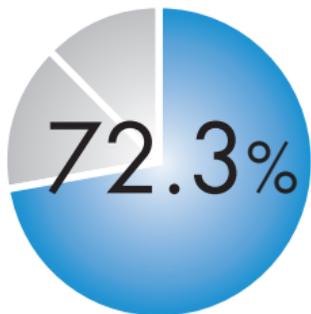


セミトレーラ2軸のうち、前1軸のリフトアップが可能

# セグメント別概況

## ◆ 特装車事業

売上構成比



特装車事業につきましては、厳しい市場環境が続く中、生産体制の再編や集中購買等による生産効率のアップに努めるとともに、人員体制の見直し等をはじめとする固定費圧縮の施策を進め損益の改善を図りました。また、新しい市場をターゲットとした新製品の開発にも取り組み、受注の確保に努



コンクリートポンプ  
(スクイズクリート®PH55-18)

## 国内普通トラック登録台数の推移



めました。しかしながら、市場の大幅な悪化により国内、海外ともに受注が大幅に減少いたしました。この結果、売上高は16,602百万円(48.8%)減少して17,451百万円、営業利益は3,309百万円減少して2,043百万円の損失となりました。



リヤデッキ昇降式  
コンテナトレーラ

## 海外事業売上高



## 新製品 NEWS ④

### パワーゲート®新型V600・V800

パワーユニット(油圧駆動装置)の独自開発および内製化に成功し、本体に組み込むコンパクトな構造としたことで、すっきりしたスマートな外観と、架装のしやすさおよび自由度を大幅に向上させました。

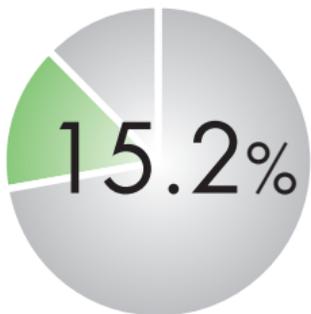


写真は V600

# セグメント別概況

## ◆ 環境事業

売上構成比

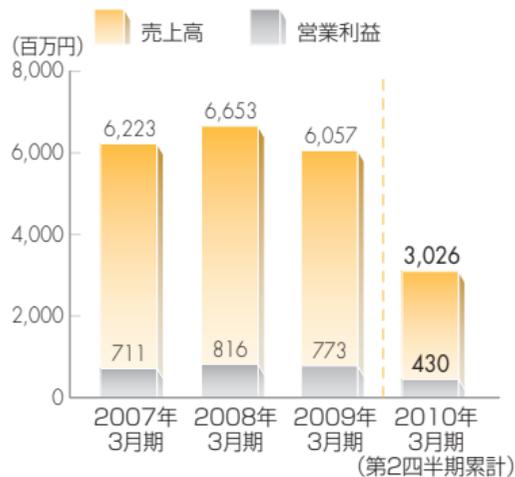
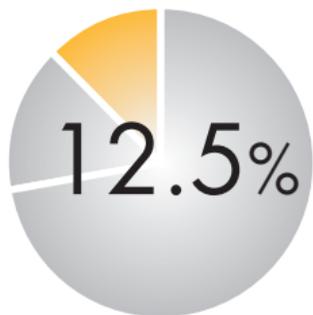


RDF 製造施設

環境事業につきましては、プラント部門の採算重視の選別受注ならびにメンテナンス・運転受託への注力を図りました。また、プラント製造技術の海外展開にも積極的に取り組みました。この結果、売上高は279百万円(8.3%)増加して3,666百万円、営業利益はプラント部門の採算性向上により558百万円増加して376百万円となりました。

## ◆ 不動産賃貸等事業

売上構成比



不動産賃貸等事業につきましては、立体駐車装置およびコインパーキングのサービス・メンテナンスの強化、リニューアル事業への注力、新製品の開発等により業績向上に努めました。この結果、売上高は200百万円(7.1%)増加して3,026百万円、営業利益は103百万円(31.5%)増加して430百万円となりました。



立体駐車装置



コインパーキング (P.ZONE®)

# 連結財務諸表

## 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 2008年9月30日現在	当第2四半期 2009年9月30日現在	前 期 2009年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	55,599	41,968	49,204
固定資産	43,437	43,524	41,795
有形固定資産	35,030	36,322	35,142
無形固定資産	445	416	430
投資その他の資産	7,961	6,785	6,222
<b>資産合計</b>	<b>99,037</b>	<b>85,492</b>	<b>90,999</b>

科 目	前第2四半期 2008年9月30日現在	当第2四半期 2009年9月30日現在	前 期 2009年3月31日現在
<b>負債の部</b>			
流動負債	29,739	18,623	23,911
固定負債	11,941	12,939	12,356
<b>負債合計</b>	<b>41,681</b>	<b>31,562</b>	<b>36,268</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	56,907	53,614	54,829
資本金	11,899	11,899	11,899
資本剰余金	11,718	11,718	11,718
利益剰余金	35,434	32,140	33,355
自己株式	△ 2,145	△ 2,145	△ 2,144
評価・換算差額等	448	315	△ 98
その他有価証券評価差額金	187	224	22
為替換算調整勘定	261	90	△ 120
<b>純資産合計</b>	<b>57,356</b>	<b>53,929</b>	<b>54,731</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>99,037</b>	<b>85,492</b>	<b>90,999</b>

## 四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	前 期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで
売上高	39,995	23,942	72,116
売上原価	33,088	20,240	60,573
売上総利益	6,906	3,702	11,542
販売費及び一般管理費	5,492	4,936	11,069
営業利益又は損失 (△)	1,414	△ 1,233	473
営業外収益	409	265	691
営業外費用	245	351	580
経常利益又は損失 (△)	1,577	△ 1,319	584
特別利益	3	1	6
特別損失	322	63	1,896
税金等調整前四半期 (当期) 純利益又は純損失 (△)	1,258	△ 1,381	△ 1,305
法人税等合計	430	△ 365	△ 253
<b>四半期 (当期) 純利益又は純損失 (△)</b>	<b>827</b>	<b>△ 1,016</b>	<b>△ 1,051</b>

## 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	前 期
	2008年4月1日から 2008年9月30日まで	2009年4月1日から 2009年9月30日まで	2008年4月1日から 2009年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	712	2,431	2,363
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 962	△ 1,802	△ 1,190
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 459	△ 1,788	905
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	2	67
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 705	△ 1,156	2,145
現金及び現金同等物の期首残高	8,186	10,334	8,186
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加	—	—	2
<b>現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高</b>	<b>7,480</b>	<b>9,178</b>	<b>10,334</b>

### ■ 配当総額の推移

(百万円)



## 会社概要

■ 商 号	極東開発工業株式会社 KYOKUTO KAIHATSU KOGYO CO., LTD.
■ 設 立	1955年6月1日
■ 資 本 金	11,899,867,400円
■ 従 業 員 数	連結 2,186名 単独 838名

## 役 員

代表取締役会長グループ代表	田 中 勝 志
代表取締役社長最高執行責任者	筆 谷 高 明
取締役常務執行役員	橋 本 元 八
取締役常務執行役員	中 井 一 喜
取締役執行役員	植 山 友 幾
取締役執行役員	高 島 義 典

常 務 執 行 役 員	安 岡 嘉 宏
執 行 役 員	岡 本 太 郎
執 行 役 員	吉 田 正 敏
執 行 役 員	熊 沢 紀 博
執 行 役 員	津 田 隆 久
執 行 役 員	池 田 修 己
執 行 役 員	西 田 正 和
執 行 役 員	西 川 柳 一 郎
常 勤 監 査 役	中 村 俊 治
監 査 役	植 田 浩 三
社 外 監 査 役	天 宅 陸 行
社 外 監 査 役	道 上 明

# 株式データ (2009年9月30日現在)

## 株式の状況

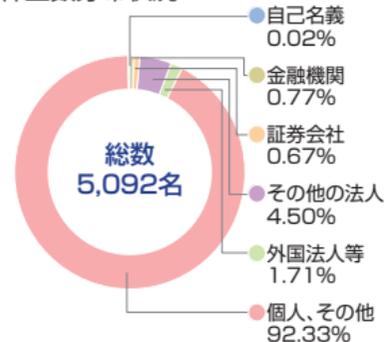
- 発行可能株式総数 170,950,672 株
- 発行済株式総数 42,737,668 株
- 株主数 5,092 名
- 大株主

株主名	持株数(千株)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,377
株式会社三井住友銀行	1,500
日本マスタートラスト信託銀行株式会社みなと銀行口	1,498
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,466
宮原 幾男	1,166
極東開発共栄会	1,027
三菱 UFJ 信託銀行株式会社	1,012
シービーエヌワイデイエフエイインターナショナルキャップバリューポートフォリオ	844
日本マスタートラスト信託銀行株式会社トヨタ自動車口	837
極東開発従業員持株会	775

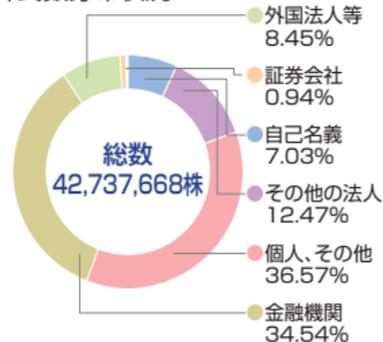
(注) 当社は自己株式を 3,004 千株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

## 株式分布状況

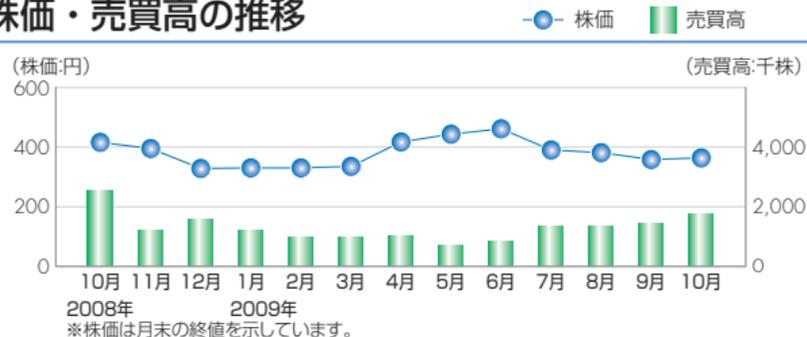
株主数分布状況



株式数分布状況



## 株価・売買高の推移



## 株 主 メ モ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末 3月31日

中間 9月30日

公告方法 電子公告

当社ホームページにて掲載

(<http://www.kyokuto.com/>)

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同 連 絡 先 三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502

大阪府中央区伏見町三丁目6番3号

TEL 0120-094-777(通話料無料)

上 場 取 引 所 東京証券取引所市場第一部

大阪証券取引所市場第一部

### <ご注意>

- 1.株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

この冊子に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒663-8545 兵庫県西宮市甲子園口6丁目1番45号

極東開発工業株式会社 経営企画部

TEL:0798-66-1500

URL:<http://www.kyokuto.com/>

MAIL:[kkkikaku@kyokuto.com](mailto:kkkikaku@kyokuto.com)